

Q62264

· Claim 1

Cited Example 1. International Publication No. 98/18246 pamphlet

Cited Example 2. Japanese Unexamined Patent Application Publication H10-233745

Cited Example 3. European Patent Application Publication No. 1355465 specification

Remarks

Multiplexing data of a different protocol over a specific layer is in itself known, as can be seen in Cited Examples 1 through 3. Here, the question of which of the (about 1 to 3) layers to combine with data of what protocol (extremely varied) does not go beyond a matter of design for a person skilled in the art. Furthermore, using IP packets, the primary internet protocol packets, and best effort, is found to be one such combination.

The patent family of Cited Example 1 includes Kohyo Publication 2000-502547.

· Claim 2

Cited Examples 1 through 3

Remarks

It is found that including specific information in a packet or frame header and appending a CRC for the payload are well known commonly employed means in the field of telecommunication, which could be suitably selected by a person skilled in the art.

· Claims 3 and 4

Cited Example 1 through 3

Remarks

It is found that making the payload variable-length is a well known commonly employed means in the field of telecommunication, which could be suitably selected by a person skilled in the art. Furthermore, suitably determining the size thereof does not go beyond the normal exercise of creative capabilities of a person skilled in the art. The fact that IP packets use a maximum of 65536 bytes is a well known matter.

Record of Prior Art Literature Search Results

· Fields Searched IPC 7th Edition
 H04L12/56
 H04J 3/00

DB name

· Prior Art Literature

Unexamined Patent Application Publication H2001-186188

This Record of Prior Art Literature Search Results does not constitute a reason for rejection.

整理番号:49210400 発送番号:103739 発送日:平成16年 3月23日

1

拒絶理由通知書

特許出願の番号	平成11年 特許願 第354934号
起案日	平成16年 3月16日
特許庁審査官	野元 久道 9184 5X00
特許出願人代理人	丸山 隆夫 様
適用条文	第29条第2項、第37条

この出願は、次の理由によって拒絶をすべきものである。これについて意見があれば、この通知書の発送の日から60日以内に意見書を提出して下さい。

理 由

A. この出願の下記の請求項に係る発明は、その出願前日本国内又は外国において頒布された下記の刊行物に記載された発明に基いて、その出願前にその発明の属する技術の分野における通常の知識を有する者が容易に発明をすることができたものであるから、特許法第29条第2項の規定により特許を受けることができない。

記

・請求項1

引用例1. 国際公開第98/18246号パンフレット

引用例2. 特開平10-233745号公報

引用例3. 欧州特許出願公開第1355465号明細書

備考

引用例1～3にある如く、所定のレイヤの上に、異なるプロトコルのデータを多重する程度のことは周知であり、その場合、何処のレイヤ（1～3程度）の上に、何のプロトコルのデータ（かなり多様）を組み合わせるかは、当業者の設計事項にすぎない。また、IPパケットのプライマリインターネットプロトコルパケット、およびベストエフォートを採用したことも組み合わせの1つと認められる。

なお、引用例1の Patent ファミリーに特表2000-502547号がある。

・請求項2

引用例1～3

備考

パケットやフレームのヘッダーに所定の情報を含めること、ペイロードに対しCRCを付けることは通信分野において周知慣用手段にすぎず、当業者が適宜採

採し得た設計事項と認められる。

・請求項3, 4

引用例1～3

備考

ペイロードを、可変長にすることは通信分野において周知慣用手段にすぎず、当業者が適宜採採し得た設計事項と認められる。また、そのサイズを適宜決めることも当業者の通常の創作能力の発揮にすぎない。なお、IPパケットも最大65536バイトを採用していることは周知事項である。

B. この出願は、下記の点で特許法第37条に規定する要件を満たしていない。

記

現時点で、この出願の発明の主要部と考えられるものは、本願請求項1に含まれると認められる。そして、上記A. で記載した如く、請求項1自体が通信の技術分野の当業者においては設計事項にすぎないものと認められるから、当然、その中に含まれているはずものは、特許法37条第2号で言う主要部の要件を満たさない。(単一性における主要部とは、『発明がそれまでに未解決であった課題を解決した場合には、当然請求項中に「発明が解決しようとする課題」に対応した新規な構成にかかる事項である「発明の構成に欠くことができない事項の主要部」が存在する』、これが主要部である。)

そして、上記A. の如く、請求項1自体が、当業者の通常の創作能力を超えたものではなく本願発明には新規な作用効果がないものと認められる。つまり逆に言えば、新規な課題を解決していない。従って、特許法第37条第1号の要件である新規な課題を解決したものでもないから、この出願は、特許法37条第1号を満たさない。

さらに、特許法第37条第3号以下の項の関係も有していないから、特許法第37条の規定を満たしていない。

よって、この出願は、特許法第37条に規定する要件を満たしていない。

この出願は特許法第37条の規定に違反しているので、請求項1～4以外の請求項に係る発明については新規性、進歩性等の要件についての審査を行っていない。

現時点では、主要部が存在しないから、請求項5～108は個別の発明を列挙したものと認められる。出願人は、主要部を意見書で明確にして、それを手続補正書で請求項に反映されたい。

・調査した分野 I P C 第 7 版
 H 0 4 L 1 2 / 5 6
 H 0 4 J 3 / 0 0

D B 名

・先行技術文献

特開平 2 0 0 1 - 1 8 6 1 8 8 号

この先行技術文献調査結果の記録は、拒絶理由を構成するものではない。